

建具製造業における死亡災害事例（1999-2020年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労 働 者 規 模
2001	11	16 ～ 17	ルーターで木工キャビネット部材のNC加工中に機械が非常停止したため、通常の復旧作業を行ったが復旧しなかったため職長がNCマシンのメーカーに連絡しようとしていたときに、機械の付近にいた作業員が定盤と枠部との間に両足大腿部分を挟まれた。	135	7	30 ～ 49
2003	6	9 ～ 10	集じん機に繋がれている木材万能研削盤から焦げる臭いが出ていたので、すぐに機械と専用の排風機を止め点検を行った結果、バグフィルターに異常がないことを確認して臭いのあったダクトを塞いで他のダクトからの作業は再開し、全体の集じん機のスイッチを入れ念のため集じん塔を確認しようとシャッターを開けていたところ、突然爆燃し近くにいた3人のうち1人が死亡した。	522	14	50 ～ 99
2004	5	19 ～ 20	フォークリフトを用いて普通トラックの荷台から専用パレットに固定されたガラス板約800kgの荷下ろし作業中、当該荷を少し上げたところ、荷が倒れかかったため荷台上でフォークリフト運転士に合図を行っていた被災者が転落し、当該荷の下敷きになった。	611	5	1 ～ 9
2005	10	14 ～ 15	事業場の外壁に立て掛けておいたアルミサッシ（1枚の重さ10kg）のうち壁側のアルミサッシを抜き取る作業を行っていたが、被災者が10枚のアルミサッシを手で垂直に支えている間、他の作業者がアルミサッシを抜き取ろうとしていたところ、被災者がアルミサッシを支えきれずに後ろ向きに転倒してアルミサッシの下敷きとなった。	521	5	1 ～ 9

2007	3	13 ～ 14	木造2階建の事務所兼木工場において、2階の作業場にある机の下付近から煙が出ているのを発見し、作業員数名が消火器で火災を消そうとしたが、火の勢いが強くなり全員避難した。しかし、被災者だけが再度消火器を持って建物内部に入り、死亡した。	418	16	10 ～ 29
2007	12	6 ～ 7	被災者は、出勤するために社用車の助手席に同乗して移動していたところ、高速道上で交通規制をしていたパトロール車に衝突した。	231	17	1 ～ 9
2007	6	13 ～ 14	建具材を屋上から1階へエレベーターで降ろしているとき、エレベーター内で建具材がずれ、搬器と昇降路の壁の間にはさまり搬器が停止したので、屋上の扉を開け搬器の上へ乗り、はさまった建具材を引き抜いたところ、搬器がワイヤロープのたるみの分落下しその衝撃でワイヤロープが切断、搬器と共に1階まで約6m落下した。	214	1	10 ～ 29
2008	4	16 ～ 17	畑の耕作とジャガイモの植え付けを終えて事業場に戻り、耕作に使用した耕耘機をワゴン車より降ろす作業中に耕耘機のハンドルとワゴン車の天井部分に身体をはさまれて死亡した。	169	7	1 ～ 9
2020	10	14 ～ 16	被災者は製品配達のためトラックを運転中、路肩に停車していた大型トラックに衝突した。	221	17	30 ～ 49

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_03.htmlに戻る。